

2003年度第2回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2003年(平成15年)6月4日(水) 15:32～16:25

場所：L-911

出席者：計 89名

欠席者：計 21名

配布資料(事前配布)：

- 1 企画書(最終報告/新ホフマン計画案) 学部・学科体制の基本構想
- 2 企画書(最終報告/新ホフマン計画案) 外国語学部におけるコース制の導入
- 3 企画書(最終報告/新ホフマン計画案) 職員人事制度の再構築

配布資料(当日配布)：

- 1 [資料1]長期計画企画拡大会議 委員名簿(2003年4月1日現在)
- 2 [資料2]専門部会各検討専門委員会 委員名簿(2003年4月1日現在)
- 3 [資料3]進捗状況一覧表
- 4 [資料4]企画書(最終報告/新ホフマン計画案)について 意見書

会議資料(プロジェクト投影)：

- 1 専門部会各検討専門委員会の企画書案(中間報告)

議 事

1. 新2号館(仮称)について

株式会社竹中工務店 東京本店設計部の藤岡尋氏から、現在建築中の新2号館(仮称)の概要について解説があった。

なお、高祖理事長から、新2号館(仮称)の設計図は施設部に置いてあり、いつでも見られるようにしてあるとの補足説明があった。

2. 長期計画の進捗の概観について

高祖理事長から、資料3「進捗状況一覧表」に基づいて、過去2年間に提案された企画案とその進捗について説明があった。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第1委員会

- 新学部(ヒューマン・ディグニティ:仮称)
2003年6月に設置準備委員会を発足する予定。2005年4月の開設を予定している。
- 語学教育センター
外国語学部の改革案とも関わるので、これを待ってから検討を進める予定。

(2)アカデミック・プラン等検討専門第2委員会

- アジア人材養成研究センター
2002年10月に開設。

- 法科大学院
設置申請書類を作成中であり、2003年6月下旬に文部科学省に提出する。2004年4月に開設の予定である。
 - 海外招聘客員教員受入制度
2003年4月に暫定的に施行し、2年間の運用を経た後、2005年4月に正式施行とする
 - 地球環境大学院
2003年1月に設置準備委員会を設置し、2005年4月の開設を予定して現在検討を進めている
 - グローバル・スタディーズ研究科
予備調査会を設置する予定
 - 研究機構
実施委員会を発足させる予定
 - 言語科学研究科は今後の大学院再編案に関係し、公共政策研究所やヒューマンケアサイエンスセンターは研究機構の設立に関わることから、今後の検討が待たれるところである。
- (3)フィジカル・プラン等検討専門第1委員会
- 運営組織改革
2003年4月に大綱を発表した。2003年6月に実施委員会を立ち上げる予定である。
- (4)フィジカル・プラン等検討専門第2委員会
- 新設A地区建造物(新2号館(仮称))
2003年3月24日に着工し、2005年3月末竣工の予定である
 - 赤羽男子学生宿泊施設
赤羽の土地に宿泊施設を作るべきかどうかも含めて検討を重ねている。
- (5)人事計画等検討専門委員会
- 職員人事制度
運営組織改革と密接に関係しており、本日行なわれる最終報告書の審議を経た後、両者を統合して検討を開始する。
- (6)財政計画等検討専門委員会
- 事業会社の設立について、2003年6月末答申を目途に予備調査会で検討中である。
- (7)上智短期大学検討専門委員会
- 上智短期大学の将来構想について、短期大学内の会議等で検討を重ねている。
- (8)上智社会福祉専門学校検討専門委員会
- 新学部(ヒューマン・ディグニティ:仮称)との関係が深くなると思われるので、その動向を見ながら検討を進めていくこととなる。
- (9)生涯教育検討専門委員会
- 2003年3月に生涯教育ビジョンが発表された。

3. 専門部会各検討専門委員会の進捗について

専門部会各検討専門委員会における検討事項のうち、理念や具体的なポイント等をまとめることができた計画について、企画書案(中間報告)として発表した。

なお、中間報告に対する意見、要望、提案があれば、事務局まで寄せられたい。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第2委員会（報告：委員長・笠島学术交流担当副学長）

(a)「学术交流の促進」

笠島学术交流担当副学長から、スライド(プロジェクタ投影資料)をもとに説明があった。

4. 新ホフマン計画(案)の審議について

専門部会各検討専門委員会における企画案の検討を踏まえ、最終企画案(最終報告)を「新ホフマン計画(案)」として審議することとした。

(1)アカデミック・プラン等検討専門第1委員会

(a)「学部・学科体制の基本構想」

(b)「外国語学部におけるコース制の導入」

- 池尾学務担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第1委員会委員長)から以下の説明が行なわれた後、長谷川学事部学務課員(アカデミック・プラン等検討専門第1委員会事務担当)から最終報告書の朗読があった。

- アカデミック・プラン等検討専門第1委員会の下に、学部・学科再編小委員会を2001年9月に発足させ、24回の議論を重ね、最終報告書「学部・学科体制の基本構想」を取りまとめた。
- 「学部・学科体制の基本構想」は、全体枠について検討したものであり、それぞれの学部をどうするかについては、個別に提案を行なうこととした。すでに新学部(ヒューマン・ディグニティ(仮称))について、2002年9月に最終報告書が提出されており、今回は2つめの提案として、外国語学部についての最終報告を提出する。
- 比較文化学部および理工学部については、近日中にそれぞれの学部の改革案が提出される予定である。

- 「外国語学部におけるコース制の導入」に関して、堀坂外国語学部長から、以下の補足説明があった。

- 今回提案の「コース制」は、カリキュラムの変更により対応できると考えており、文部科学省への届出等などは必要ないと思われる。
- コース制の導入により、学科でしっかりと外国語を習得した上で、専門性をより高める教育を行なうことを主眼としている。
- 単に外国語教育を唱えるだけでは、学部の特質を十分に説明しきれておらず、受験生へのアピール不足となっている。
- 外国語学部等の名称変更を意図しているのではないかと一部で思われているようであるが、「初めに名称変更ありき」ではない。学部の理念を表わすメッセージ性の高い名称を検討したことはあるが、適当なものは見つからなかった。むしろ、教育内容の充実を行なうことの方が先決である。

(2)人事計画等検討専門委員会

(a)「職員人事制度の再構築」

- 青山人事担当理事(人事計画等検討専門委員会委員長)から、最終企画案(最終報告)についての説明があり、その後、尾形人事部人事課係長(人事計画等検討専門委員会事務担当)から最終報告書の朗読が行なわれた。

- 職員人事制度に関することとして、新2号館(仮称)建設により事務組織の集中化が行なわれる

ことになっており、また、運営組織についての大綱がすでに公表されている。

- ▶ 人事計画等検討専門委員会では、従来から職員人事制度について検討を重ねてきたが、最終案がまとまったので、本日この会議で発表することとなった。

〈質疑応答〉

- Q. 最終報告書にある「公正な処遇」「能力・成果等の評価」「専門性」などを初めとする諸事項は、是非推進してほしい課題である。最近の実験室等の火災、入試におけるミス等、様々な問題が噴出しているが、事務部門に大学運営のプロフェッショナルがいないことが問題を大きくしている。信賞必罰は必要であり、また、職員がやりがいを発揮できる制度を作り上げてほしい。ところで、教員の人事制度は、今のままでよいのかという疑問がある。これについては、どのように考えているのか。
- A. 人事計画等検討専門委員会では、教員・職員の両方について検討を重ねている。今回は職員の方を先に取りまとめる必要があり、今回の最終報告となったが、教員の人事制度については根本的な問題を含めて検討中であり、いずれ中間報告できると思われる。

最終企画案(最終報告)の審議のあと、議長から意見書提出の方法について説明があった。

- 今回の質疑応答以外にも、委員からさらに意見を聴取したいので、当日配布資料にある『意見書』に、質問、意見、要望等を記入して、2003年6月17日(火)までに事務局(創立100周年記念事業推進室)まで提出していただきたい。なお、配布した『意見書』を用いなくても構わない(様式は自由である)。また、電子メールによる提出も可能である。

5. 次回会議について

次回は、2003年7月2日(水) 15:30から、L-911で行なうこととする。

以上